

## 論文主旨

**研究目的：**抗精神病薬治療の進歩、心理社会的治療の普及、地域生活のための支援の充実を組み合わせることで、精神疾患をもつ人が地域で生活を送るようになり、精神疾患をもつ女性が、結婚や妊娠・出産を経験する機会も増えている。しかし精神疾患をもつ妊婦の全国調査は実施されておらず、ガイドラインもないのが現状である。そこで統合失調症もしくは双極性障害をもつ妊婦に対するケアについての国内外の先行研究から精神症状をコントロールするために用いられている治療・ケアについて明らかにし、精神疾患をもつ妊婦に関わる医療者に対して介入するリエゾン精神看護専門看護師に対する示唆と今後の課題を見出すことを目的とした文献レビューを行った。

**方法：**医学中央雑誌、PubMed を用いて文献検索を行った結果、選択基準を満たした国内外の 32 件の文献、38 事例を分析対象とした。対象文献と対象者の概要、統合失調症もしくは双極性障害をもつ妊婦の精神症状とそれに対する治療もしくはケアに関する情報を抽出し、整理した。

**結果：**治療やケアを必要とした精神症状は、【幻覚妄想がある状態】【興奮状態】【治療への拒否がある状態】【落ち着きがなく多弁であり安静が保てない状態】【集中力、理解力の低下により理解が得られにくい状態】【不安を繰り返し訴える状態】【精神症状が安定している状態】の 7 項目のカテゴリーと 32 のサブカテゴリーに分類された。各精神症状に対して行われていた治療やケアは、妊婦でない統合失調症もしくは双極性障害をもつ人がそれらの精神症状出現時の治療・ケアと同じであり、母児の安全を守るように行われていた。行われていた治療・ケアの特徴は、観察の頻度をあげること、精神症状が安定した時に妊娠経過や分娩時に関する患者教育を行っていたことであった。

**考察・結論：**統合失調症もしくは双極性障害の疾患の特性として、自身の体調の変化に気づきにくい、もしくはその変化を他者に伝えられないことがあるため、頻度をあげた観察が必要となる。自分のこと以外にも関心が向けられる精神症状が安定している時に、患者教育を行うことで妊娠の受容や母親役割の獲得を促し、母親になる心理的適応過程を支えていた。これらの支援を妊婦が受け入れられる精神症状が安定した状態になるように、治療やケアをすることが必要となる。また介入が必要となった妊娠期の精神症状は、精神科や精神科以外の診療科の看護師にとって対応困難となる可能性があることが考えられた。そのためリエゾン精神看護専門看護師に期待される役割もしくは可能性として、WCC に基づいたケアが提供できるように精神疾患をもつ妊婦のケアに携わる看護師への精神症状のアセスメントやケア方法に関する教育を行うことで知識を高め、看護師が対応困難と感じた時にコンサルテーションを行い、看護師を心理面からサポートすることが考えられる。